

## 博物館だより

## 第2号

発行 長野市立博物館 〒381-11  
 長野市小島田町八幡原史跡公園内  
 電話 (0262) 84-9011・9012  
 発行日 昭和58年2月1日  
 印刷所 第一印刷株式会社



古墳上の祭祀集団

—塚廻り4号古墳—

大刀を持つ巫女を先頭に巫女・跪坐男子・飾り馬と一団の男子・器財はにわと並ぶ様は、葬られた王者を背景にした権力移譲の儀式とも考えられています。

## 節目の年

館長 掛川一夫



年が改まり、市立博物館は2度目の新しい年を迎えました。これからの1年は、昨年と異なって一度通った道のはずですが、それでも年頭という大きな節目に立つと、心の改まる思いがします。

先人は、よどみなく流れる「時」に見られる周期的現象を巧みに生かして、生活に節を作ってきました。竹は節あるが故に強く、また美しいとされます。節を思い、節々を生かしたいものです。

ことし昭和58年・西暦1983年の干支は癸亥、60年周期の最後の年にあたります。大きな節を前にしてふり返えると、昭和初年、干支1周期前の時代の姿は、当館の民俗展示に見られます。また、西暦当初期の文化程度は、弥生時代の展示から伺い知ることができます。そのころローマでは、道路や水道

道など後世に残る大土木工事が行われ、すこし遅れて円形劇場も完成しています。ギリシャではそれより400年余前に古典文化の黄金時代を迎え、パルテノン神殿などが造られ、さらに2000年も前にエジプトでは、大ピラミッドが建設されています。

その当時は、開発途上の日本が、このたいへんな遅れを取り戻し、現在では量的に追いつくまでになったのも先人の力です。古くは質的に高いものもありましたが、それに加えて後世に残せる文化的遺産は何でありましょうか。

ご寄贈ご寄託を賜った数多くの貴重な資料をただ守るだけでなく、そこに加える文化を創造する拠点として、博物館が役立てば幸いです。史跡公園も完成する年、完璧な装いで甲子の年を迎えたいものです。

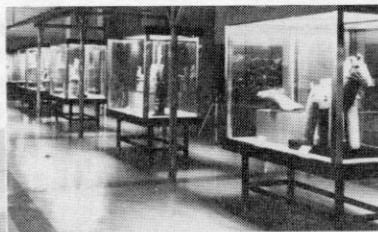
## 今後の予定

- |             |                           |
|-------------|---------------------------|
| 2月6・14日(日)  | 古文書教室                     |
| 2月27日～3月27日 | 企画展「職人さん」                 |
| 3月5日(土)～    | プラネトリウム「春の星座」投影開始         |
| 3月23日～31日   | 同上春休み特別投影<br>(28日を除く平日1回) |

予想以上の盛況

開館一周年記念として、はにわ展を9月23日～11月3日に開きました。この企画展は、汎日本的なものを主材にして外部から郷土をふりかえってみようとするものです。はにわという言葉は一般に知れわたっていますが、実物に接する機会が少なく多分に美術品の扱いをされます。こうした立場からはにわの歴史を知り、古墳におけるはにわの意味を追求しました。

はにわの起源として特殊器台と壺を吉備地方から、5世紀のはにわを畿内、5・6世紀のものを東海、6・7世紀は東国に求めました。



さらに、古墳を復元して墳丘上にはにわを据えるなど、わかりやすくする新しい試みをして注目され、連日県内外から予想以上に大勢の観覧者を迎えて多大な反響を呼びました。

月食を見る

天体教室

12月30日夜、月が地球の影にすっぽり隠される皆既月食がありました。博物館ではこれに合わせて月食の学習をする天体教室を開きました。

当日は、日中雨から雪に変わるあいにくの天候にもかかわらず親子連れを中心に約50名の参加者がありました。次に見られる皆既月食は2年半後ということもあり、関心が高かったようです。約1時間天体学習室で月食の学習をしたあと、庭へ出て望遠鏡5台と双眼鏡で観望に移りました。幸いにも月食の始まる6時50分頃には雲が切れてきて、薄雲があったものの皆既に入る8時頃までは月食の進行を見ることができました。

ただ、冬型の気圧配置となったため、雪のちらつく中で

の観望で、クライマックスともいえる皆既の赤い月は残念ながら薄雲のベールにつつまれてしまいました。



しめ縄づくり

昨年(12月19日(日))に「しめ縄づくり教室」を館内で催しました。当日は倉石忠彦先生の「しめ縄について」のお話に引きつづいて、しめ縄づくりを伝承している宮島克己先生の指導でごぼうじめなど身近にみられるしめ縄を作りました。(参加者32名)。また翌26日には職員が2階民家の中で餅つきもしました。

企画展 「職人さん」

2月27日～3月27日

手工業の生産だけで生計を立ててきた職人による生活用品が、私達の周辺から次第に姿を消そうとしています。伝統に培われたこの民俗文化を記録し、保存することは急務と考え、次のような内容で職人展を企画しました。

- 資料展示…下駄職、桶職、曲げ輪師、竹細工師、棒屋、提灯屋などの生産品、使用道具など。
- 技術展示…下駄作り、桶作り、曲げ物作り、竹細工作り、鍬柄作り(棒屋)などを、土・日・祭日に順次実演。

古文書教室は2月に2回

常設展示で、さけておれない事項に、「川中島の戦」があります。来館者の皆さんも博物館所在の場所からこの戦史資料を求めて来る人があります。これらの要望にこたえるのが、今回の教室です。

期日2月6日・13日の2回、定員各40名、講師小林計一郎先生(長野高専教授)、テキスト信玄・謙信頼文等。史跡めぐり海津城・妻女山・雨宮の渡し等予定。

プラネタリウム

本年春の番組は3月5日から、題して「内惑星の世界」です。

内惑星とは、太陽系9つの惑星のうち地球の内側を回る水星と金星をいいます。宵の西空と夜明けの東空で美しく輝く水星と金星ですが、最近惑星探査機によって見かけの美しさからは想像もできない世界が明らかにされてきました。

今回はこれらの内惑星の姿を浮き彫りにするとともに春の星空をご案内します。

春の 星空



市立博物館協議会発足

次の方々が委員に決定し、去る9月25日初会合を開いて正・副会長が互選されました。(50音順 ◎会長 ○副会長)

- |         |               |
|---------|---------------|
| 浅川 欽一氏  | 長野市文化財保護審議会委員 |
| 倉田 稔氏   | 小田切中学校教頭      |
| ◎小出ふみ子氏 | 長野市文化芸術協会副会長  |
| 小林計一郎氏  | 長野郷土史研究会会長    |
| 佐藤 進氏   | 信州大学教育学部助教授   |
| 島 田氏    | 信州大学工学部教授     |
| 中島 正美氏  | 元長野県教育次長      |
| ◎花岡 直一氏 | 長野文化高等学校校長    |
| 矢沢 頼忠氏  | 真田宝物館館長       |
| 米山 一政氏  | 長野市文化財保護審議会会長 |

# 友邦諸国から賓客

## パキスタン・中国両国大使夫妻も来館

今年度は、友邦諸国から相次いで賓客が来館されました。博物館の規模や充実した展示、地震体験室、プラネタリウム等々に強い関心を示したり、驚嘆される方々が多く、予定時間を超えて熱心に見学して行かれました。



4月9日 パキスタン駐日大使夫妻  
4月15日 韓国西江青年会議所一行  
7月9日 香港太空



館館長

10月中旬 パキスタン国立博物館館長

11月21日 中国駐日大使夫妻

12月4日 石家荘市副市長一行

### 調査研究

## 成果の多かった遺跡発掘

57年度に実施された発掘調査は7遺跡にのびます。

- 浅川扇状地遺跡群迎田遺跡
- 篠ノ井遺跡群聖川堤防地点遺跡（第3次）
- 土口將軍塚古墳
- 若穂川田条里的遺構
- 篠ノ井石川条里的遺構
- 飯縄千日太夫屋敷跡

各調査とも、地元の皆さんの御協力を得て、大きな成果



をあげることができました。現在、報告書刊行のため、各発掘で得た資料を整理中ですが、この中でも聖川堤防地点の資料は特に注目されるものです。 \*

## 正月の民俗行事

玉依比売命神社（松代東条）の御田祭は1月6

日で、作男たちが田植えなどの所作をします。翌朝は児玉石神事（数の増減）や包換行事（米こうじの発酵具合）が行われます。武水別神社でも御田植え祭があります。

小正月には正月最大行事のどんと焼きです。篠ノ井塩崎越地区では、約30年ぶりに伝統的などど焼きが復活しました。道祖神祭と習合した形で、サギチョウの中に巨大な男根を抱えたワラ人形を据え、特に夫婦和合・子孫繁栄を願うもので、県下に類例がありません。

安塔 副館長 山口純一

いよう、部屋のあらゆる穴に目ばりをし、出入口も木わくをつくってシートで締め切った。そして四日間に及ぶガス注入から安全の確認・活性炭への吸着排気と不眠不休の作業を続けられた。

これまで、滅菌装置で資料の処理はして来たものの、展示室や収蔵庫の消毒が終ってみて、初めてこの一週間の休館も納得できた。

私たちの博物館のくん蒸は、開館後一年間のデータから、入館者の最も少ない時期の一月第四週と決まっている。虫や菌から文化財を守るため、博物館としてはどうしても必要なことだが、この間、休館して作業をしなければならず、後めたいものがあつた。

東京から招いた専門家たちは、気化した薬剤が漏れな

\*この遺跡からは、弥生時代の「周溝墓」が多数発見されています。「周溝墓」は墓穴のまわりに方形や円形の溝をめぐるもので、ムラの有力者やその家族を葬ったものではないかと考えられています。溝の中からは多数の供献された土器が発掘され、墓穴からは当時貴重品であった鉄製の武器や装身具、ガラス製の玉などが出土しました。

これらの資料の発見は、当時の墓制や生活の実態、さらに社会のしくみを解明する上で、重要な研究材料を提供されたと言えるでしょう。

## 全館くん蒸と防災訓練実施

1月中旬に展示室・収蔵庫を中心に、全館くん蒸をしました。これは展示収蔵品をカビや虫害から守るために、年1回の子定で実施したものです。有害ガス使用の関係もあって、東京の専門業者に依頼し、事前事後及びガス注入中にも万全の方策を講じて、無事完了しました。

また、1月26日の文化財防火デーを期して、消防署協力のもとに防火訓練も実施しました。

非常分掌に従って全館員が、入館者の避難誘導・消火活動を行い、予期以上の成果をあげました。その後、消火器操作実習もして、文化財防護の決意を新たにしました。

保科高岡では15日夜部落総出であずき焼占いがあり、お日待となります。

正月には豊作祈願などの予祝的行事が中心となつて、多くの民俗的行事が集中していますが、次第に失われてきています。



上 越どんと焼き  
左 御田祭り

# 展示の見どころ ②

## 化石は語る

化石によって、その生物が生きていたころの様子や、その地層ができた年代を知ることができます。

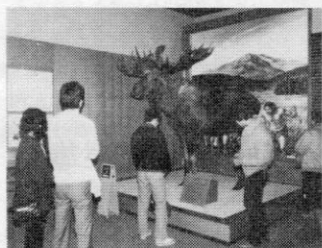
展示したシュロなどの茶臼山産植物化石から、新第三紀中新世後期の気候変化がわかります。

また、裾花川流域などから採れた動物化石は、中新世中期から鮮新世前期の移り変わりを示します。クジラも泳いでいた広い海が、流れこむ土砂で次第に埋められ隆起して、ホタテ貝などのすむ冷たい入り海に変わり、やがてシジミなどのいる湖に変わってきたことを教えてくれます。

## ヘラジカと旧石器

自然のコーナーが終り、細い通路をぬげると、正面に巨大な動物がいます。これがヘラジカ（ムース）で、旧石器時代に住んでいたオオツノジカに最も近い現存する種だと考えられています。このはく製はアラスカのケナイ半島で捕獲されたものです。

このような巨大動物をどのようにして狩りをしたのかその



の様子を絵にしたのが背景の内照式のパネルです。当初の予定ではヘラジカがこんなにも大きなものとは考えていなく、せまり来る旧石器人が見えるはずだったのですが、絵では、集団で沼に追い落とし狩りをするようすを想像しています。

この時代は、弓矢や投げ槍がまだなかった時代で、棍棒や突き槍が主な狩りの道具だったようです。事実すぐ横に展示してある上ヶ屋遺跡からの出土品をみて下さい。道具をつくる石器と動物解体用の石器に大別できることを。

## カヤ葺きの民家

この農家は、戸隠村栃原で名主をつとめた今井家の母屋を移築したものです。約200年ほど昔に建てられ、弘化4年（1874）の善光寺地震後に改築



## 資料協力者

次の方々から資料を寄贈していただき、ありがとうございました。

（7月～12月 敬称略）

|       |             |       |       |
|-------|-------------|-------|-------|
| 石井 久務 | 森山 公一       | 横 沢 町 | 中沢 恒雄 |
| 野村 堯春 | 国学院大学考古学資料館 |       | 柳原栄治郎 |
| 富沢 恒雄 | 南 哲夫        | 山崎孔三郎 | 高橋 建夫 |
| 大矢 好武 | 駒村 貞        | 松山 忠雄 | 春原 和昭 |

の時も、古い家の形を伝えたいといわれています。

仕事場・馬屋・こべや・台所(土間)・勝手・ちゃの間と日常生活の主要部分をそっくり展示室2階の一部に建てぐるみにし、全国的にも珍しいとされています。なお展示場面積の関係で、上座敷・下座敷の間は省きました。

生活用具・生産用具は実際に使われ、収納されていた位置に展示しました。



土間では正月が近づくと、シメナワ作りや餅つきを実演し、餅つき当日は特に茶の間を開放して、いろいろ端で入館者に新餅をふるまうなど臨場感につとめています。

最近、長野地方ではカヤ屋根を葺き替える家がほとんど無くなり、復元には苦心しました。

## 善光寺とその信仰 ①

2階展示室最初の「善光寺とその信仰」は、善光寺の創建・中世の信仰普及・現本堂の造営を中心に行いました。

旧善光寺境内などから出土した古瓦は、奈良時代初期を下らない県内最古の瓦で、創建の古さがわかります。

また、市内諸所から出た布目瓦などは、平安時代に仏教がこの盆地に広まったことを示し、次の「慈悲のまなざし」のコーナーへの伏線ともしてあります。

ここでまず目につくのは一光三尊仏像です。鎌倉時代にはこのような善光寺仏が多く移鑄され、信仰が全国に広まりました。その蔭に、頼朝の保護・北条氏等の帰依や善光寺聖たちの布教努力があったことを、吾妻鏡の記録・逆修塔の写真で説明し、鎌倉時代の善光寺の様子を国宝一遍上人絵伝などの写真で紹介しました。（以下次号に続く）

## 展示室点描

☆古墳石室の傍らでオバちゃん達。

「昔はこんな家に住んでいたんだね」「雨もりしなかったかしら。」「わら屋根もあったんでしょう。」聞きかねた館員の説明に目をシロクロ。

☆ スライド「川中島の戦い」を見ながらオニギリをほおぼって家族づれ。館員「あちらの休憩所でどうぞ。」父親「ありがとう。ここで結構です。」あと一口ですから。」館員「……………」

## あとがき

窓から入る日差しも日一日と強くなって来ました。第2号は本年度下半期の活動を中心に編集しましたが、お手許に届くのは戦人展を旬日にひかえるころになるでしょうか。

開館以来約1年半、14万3千余人（プラネタリウムは約2万2千人）の入館者を迎えました。さらに皆さんに親しまれる博物館として、いっそうの充実を期しています。